

以太利中部ノ大震ニ就キテ

委員理學博士 大森房吉

本年一月十三日以太利中部ノ激震ニ就キテハ未ダ詳報ニ接セザルモ甚シキ慘狀ヲ呈セルニハ相違ナシ、次ニ新聞紙ニ載セラレタル電報二三ヲ掲グ。

多數町村ノ破壊 死火山ノ噴口タル「フシー」ノ「湖(水ナシ)」ノ周圍ニアル「アヴェツザ」ノ「及ビ多數ノ派出ナル町ハ全然破壊セラレテ跡ナクナレリ、以太利國皇帝陛下ハ「アヴェツザ」ノ「ニ」到著セリ 同地ニテハ 救助作業行ハレツ、アリ、地震ノ中心ハ「フシー」ノ「湖」ニアリキ、地震當時通過シツ、アリシ若干ノ列車ハ軌道ヨリ投ゲ飛バサレ諸町村ノ家屋ハ崩壊シ崩壊物中ニ埋メラレタル人民ハ助ケヲ呼ビツ、アリ「羅馬」ニ於ケル法王廳、聖ビエトロ寺院及ビ其他ノ建築物ハ些カ損傷セリ「本日更ニ震動ヲ感ゼリ(倫敦一月十四日發電)」

激震當時ノ慘狀 羅馬來電「列車ハ「アヴェツザ」ノ「ヨリ」負傷者ヲ搭載シテ新タニ來著シツ、アリ「アヴェツザ」ノ「住民ハ僅々五十人許ヲ殘シテ他ハ悉ク未ダ寢臺ニアリシマ、ニテ震災ノ犠牲トナレリ、或小學校ニテハ百五十人ノ兒童

ヲ容レタルマ、ニ崩壊シ悲鳴數刻ニ亘リタレド竟ニ何人モ之ヲ救ヒ出スニ由ナカリキ又或兵舎ニテハ在營四百人ノ兵士中辛フジテ一命ヲ免レ得タルモノ僅ニ四人ニ過ギズ

(十五日タイムス社發)

未曾有ノ大強震 羅馬ヨリノ報道ニ曰ク以太利皇帝ハ從來遭遇セル地震ノ被害地ヲ盡ク視察セラレタルガ今回ノ地震ハ其激烈ナルコト從前ノ地震ニ超越シ彼ノ「メツシナ」地震以上ナリト言明セリ蓋シ「アヴェツザ」ノ「生

存者ハ總人口ノ百分ノ三ナルガ「メツシナ」ノ生

存者ハ總人口ノ百分ノ三ニシテ其ノ猛烈サ加減未曾有ナレバナリト(一月十五日倫敦ロイタル發)

慘死者ノ數不詳 以太利震災ノ慘死者ノ數ニ就キ推算區々ニシテ其數三萬人ナリト推算スル向モアリ精確ノ數判明スルニハ今後數週日ヲ要セン(同上)

微動計記象 震災豫防調査會ノ微動計ガ自記セル所ニヨレバ發震時即チ東京(本郷)ニ震波ガ波及シ來レルハ十三日午後四時四分十七秒頃ニシテ、去ル明治三十八年九月八日ノ「カラブ」リヤ州「モンテ、レオーネ」地震竝ニ同四十一年十二月二十八日午前五時二十分頃(以國標準時)ノ「メツシナ」大震ト類似セル震波ヲ示シ一目東京ヨリ約二千四百五十里ヲ距ダツル以太利地震ナルヲ知ラシメタリ、中央歐羅巴ノ時刻ハ本邦標準時ニ後

ル、コト八時間ナルヲ以テ、前記ノ東京發震時ハ以國時ニ換算スレバ午前八時四分十七秒ニ相當ス、而シテ震波ノ初期微動ガ以太利日本間ヲ傳播スルニハ約十二分間ヲ要スルヲ以テ實際ニ震災地方ニテ地震ガ發セルハ十三日午前七時五十二分頃ナリシモノトス即チ「メツシナ」大震ト同ジク冬日ノ早朝ニ發震セルモノニシテ住民ハ尙ホ寢臺ニアリシモノ多カリシヲ以テ此ノ事實ハ震死者ノ數ヲ一層夥シカラシメタルナルベシ「アヴェツザ」ノハ羅馬ヨリ東方ニ約二十里ヲ距テタル人口約一萬内外ノ一小都會ニシテ數千ノ死傷ヲ生ジタル趣キナルガ此ノ地方ハ後記スル如ク地震發生ノ患最モ大ナル場所タリシナリ。第一圖ニ最近三回、即チ明治三十八年ノ「モンテ、レオーネ」地震、同四十一年ノ「メツシナ」地震竝ニ今回ノ「アヴェツザ」ノ地震ヲ東京本郷ニ於テ觀測シタル記象ノ南北動主要部ノミヲ比較シテ示ス。

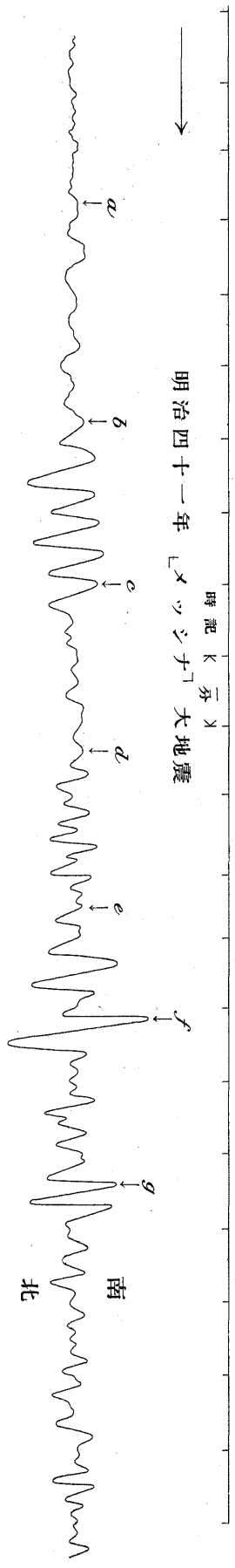
前時ノ以國大地震トノ比較 以太利ニハ古來地震夥多ナルモ其ノ激烈ナリシハ殆ド中部及ビ南部地方ニ限レリ、就中歴史ニ有名ナル「カラブリヤ」大地震ト稱スルハ我邦淺間山ガ大破裂ヲナセル天明三年、即チ西曆千七百八十三年ノ地震ニシテ約三萬人ノ死者ヲ生ジタルノミナラズ震後震災地ニ流行病ヲ發シ其ノ爲ニ更ニ二萬人ヲ斃シタリ、然ルニ明治四十一年十

二月二十八日ノ「メツシナ」大震ハ更ニ一層ノ慘狀ヲ極メ、同市及ビ「レツジオ」市ヲ殆ド全然破壊シ約十二萬人ノ死者ヲ生ジタリ、今回ノ地震ハ東京ニ於ケル微動計記象第一圖ニヨリテ比較スルニ其ノ大サ即チ激震區域ノ廣サハ「メツシナ」大震ノ二分ノ一ニ當リ三十八年ノ「モンテ、レオーネ」地震ト相等シキモノナルガ今回ハ「メツシナ」大震ガ「メツシナ」「レツジオ」兩大市ヲ破壊セルガ如キコトハ無ケレバ損害ハ割合ニ少ナカルベキナリ、因ニ以國ノ家屋ハ多クハ耐震上粗惡ナル石造建築ニシテ木造若クハ普通ノ煉瓦構造ハ殆ド皆無ナリ、故ニ同國大地震ニ際シテハ家屋構造ノ材料ガ脆弱ナルヲ以テ數千乃至數萬ノ死者ヲ生ズルハ必シモ稀ナラザルモ本邦ニ於テハ之ト異ナリ普通ノ住家ガ比較的堅固ナルヲ以テ如何ナル大地震ナルモ三萬或ハ五萬ト云フガ如キ死者ノ夥シキコトハ無キ所ナリトス。

中部及ビ南部以太利ノ地震脈 以太利國ノ大地震脈ハ其ノ長靴半島ノ中程ヨリ起リ半島中軸ニ沿フテ南方「カラブリヤ」州ヨリ「シシリ」海峽ヲ經テ同島東方ノ海底ニ延長スルモノニシテ第二圖ニ千六百三十八年ノ南以地震以來十四回ノ顯著ナル破壊的地震ノ激震區域ヲ示ス（曾テ本會歐文紀要第三卷ニ載セタル圖ニ少シク訂正ヲ加ヘタルモノナリ）此ノ地震脈ニ

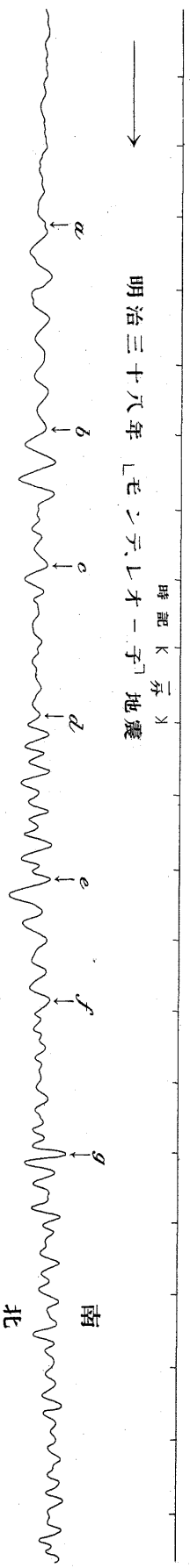
第一圖 伊太利大地震ノ東京微動計記象 大學構内ニテ観測ス

南北動(實動ノ二十倍) 主要部ノミヲ示ス
 (a, b, c, ..., f, g, ...) 等ハ三地震ノ記象中相當スル振動ヲ例示スルモノ



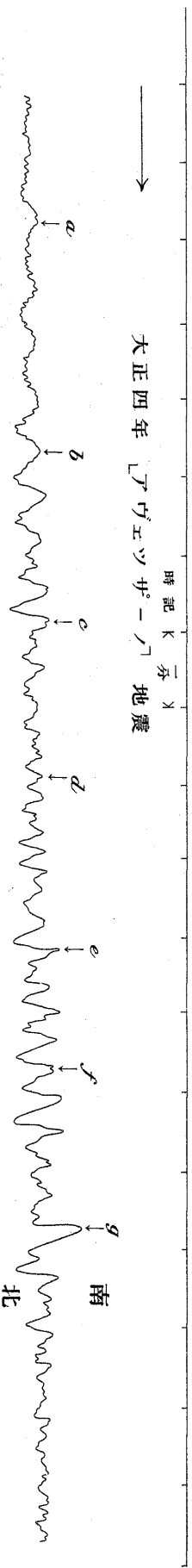
(此レヨリ左側即チ初期ノ部分ハ略ス)

明治三十八年「モンテ・レオネ」地震



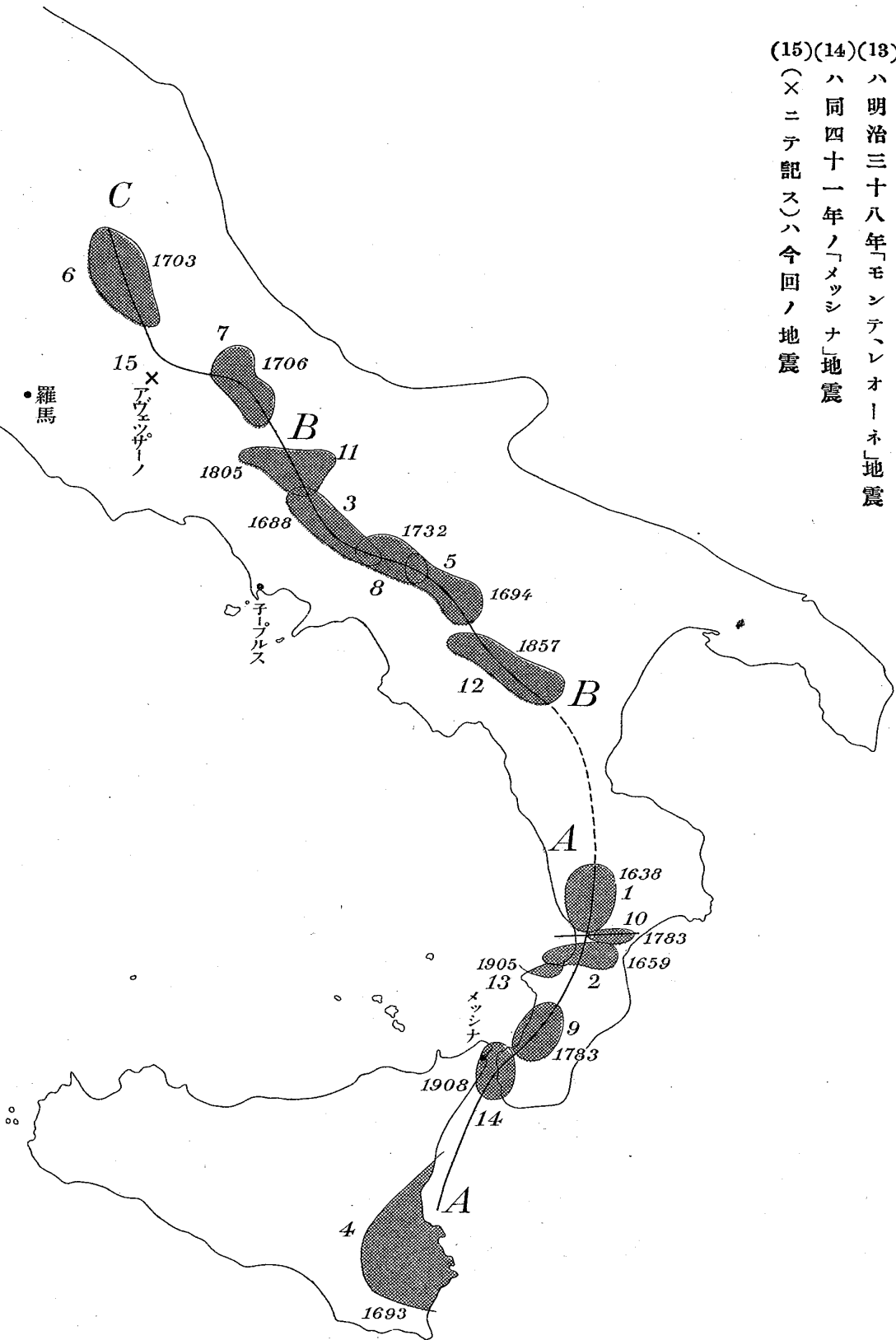
(此レヨリ右側即チ終期ノ分ハ略ス)

大正四年「アヴェツガー」地震



第二圖 伊太利中部及南部ノ大地震脈 (千六百三十八年以後ノ分)

赤色ノ地域ハ一回ヨリ十五回(最近迄)ノ大地震ノ破壊的區域ナリ
 (13) ハ明治三十八年「モンテ、レオーネ」地震
 (14) ハ同四十一年ノ「メッシナ」地震
 (15) (×ニテ記ス)ハ今回ノ地震



(C B B A A) …… 地震脈

黒色ノ數字ハ各地震ノ年數ニシテ
 赤色ノ數字ハ一乃至十五回地震ノ
 順地ヲ示ス

沿ヒ古來諸所ヨリ激震ヲ發セルガ、其ノ最モ頻繁ナリシハ地震脈ノ中部(B)ト南部(A)トニシテ、北部(C)ト中部トノ間竝ニ中部(B)ト南部(A)トノ間ハ未ダ激震ヲ發生セザル箇所アリシガ元來地震學上最モ危險地域ト稱スベキハ、地震脈ニ屬スルモ未ダ地震ヲ發セルコト無キ場所ニシテ、今回ハ即チ前記地震脈ノ北端ト中央部トノ間ヨリ發セルモノトス。

要スルニ大震ハ任意ニ如何ナル地方ヨリシテモ發スルニハ非ズシテ、地殼ノ弱線即チ地震脈ニ沿ヒ其ノ別々ノ箇所ヨリ發起スルモノナレバ地震地帯ノ理ニヨリテ各地震相互ノ關係ヲ研究シ以テ將來大震發生ノ危險ノ有無ヲ推定スルハ有益ナリトス。

羅馬ハ如何、今回ノ地震ハ羅馬府ニ於テモ稍強ク感ジ羅馬法王モ聖ピエトロ寺院ニ近接スル「サンタ、マリヤ」ノ境内ヲ通過シテ病院ニ避難セラレタリト云フ、但シ市内ニハ多少屋壁等ニ裂罅ヲ生ゼル外ニハ格別ノ損害ハ無カリシナラント考ヘラル、要スルニ羅馬府ハ以太利中部ノ大地震脈ノ上ニハアラズシテ約二十里ヲ距ツレバ將來ニ於テモ大破壞的地震ニ襲ハル、患ハ無カルベシト信ゼラル。